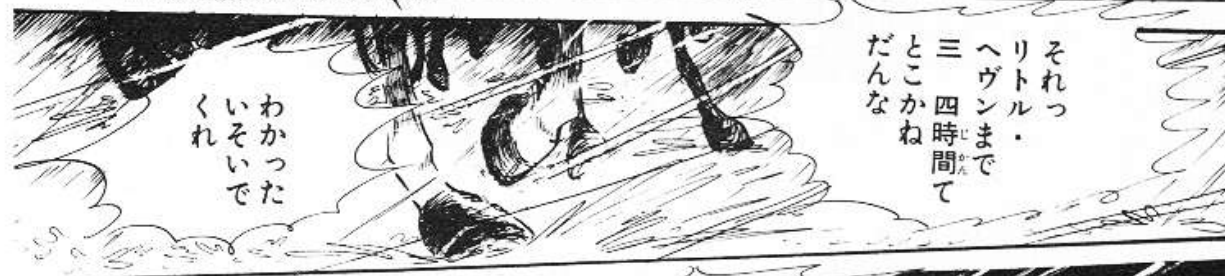
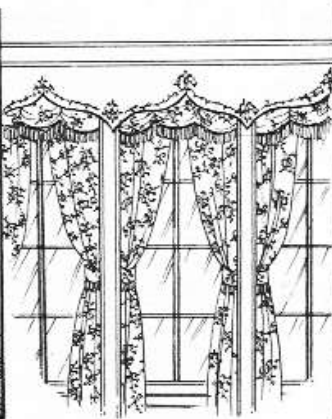
エヴァンズの遺書(いしょ)

神よ
わたしたちの生涯は
多くの生命の上に
きずかれてゆきます
わたしはこの世では
もう死んでしまっているはずの
二人のことを
わすれることができません
わたしの——兄妹
まったくバカげているが
のちの世にたくして
遺書を一通
かこうと思います
——これは気やすめだ
——だけど——

それっ
リトル・
ヘヴンまで
三 四時間て
とこかね
だんな
わかった
いそいで
くれ
まったく
こんな
嵐の日に
それっ

三――四時間か
リトル・ヘヴンでつかまえなければまた男爵たちと合流しそこなう
メリーベルも待ってるだろうに
ガラッ

七まがりのがけから馬車がおちたぞ
だく流にのまれたご領地の方へ流されてゆくぞ
なんのさわぎだ
はい伯爵さま馬車が川に
馬車?
手つだってくれここに人がいるぞーっ
うまいこと岩間にひっかかってる
ひきあげろ!

ガタ－！
もう これ以上 待てん！ いくぞ
父さま！ 待って！ 待って！
エドガーは きっとくるわ なにかで 遅れてるのよ きっとくるわ
おお ちょうど 雨があがりました よいお立ちで お客さま
それより 集会に 遅れでも したら たいへん
心配しなくても 大夫丈よ メリーベル エドガーのこと ですもの

〈P・S〉

バンパネラを殺す方法に、心臓に銀の弾丸を撃ちこむか、くいをつきさすか、てのがある。多分、心臓てのは急所なのだ。

何百年も生きてきたバンパネラは、たちまちひなびて、かさかさにくだけ、ちりと化して散じてしまう

肉体だけでなく、衣服も、古いもので、ちりになってしまうらしい。

しかし、もしバンパネラが、銀は苦手らしいので金のゆびわをしてたり、銅のバックルをつけてたりしたら、貴金属ってのは、残るんじゃないか？

もし万が一、バンパネラが、新しいパンツでもはいてたら、パンツだけでも残るだろうか。そうしたら、これはバンパネラのはいていたパンツだとか、消えた後に残ってた服のボタンだとかいって、大英博物館にかざられるかもしれない。あまり、ロマンチックではない。

わたしが考えたのは、バンパネラが心臓にくいでもうたれ、現世へ存在するバランスを失った瞬間、異次元のアナの中にでもぽっかり落ちこんでしまうのではないか、ということだ。これなら少なくともパンツは残らないだろう。

伯爵さま
伯爵さま
どうした
馬車は？
エヴァンズの
お館さま
ばらばらに
くだけて
もっと下へ
流されて
いきんした
これは
お館の
お客ですか
いや
知らんな…
死んでる
のか？
へえ
水から
あげた時は
もう
マントのひもが
首にからまって
まだ子どもだ
きれいな顔を
してるのに
アーメン
アーメン
…アーメン
…アーメン

子どもの遺体は地下室へ？
へえ
嵐がおさまったら葬式をだそう
わたしの領地内の遺体だからな
あれはどこのご子息でしょうねえ
着ているものなどなかなかよろしいものでしたよ
ほかに馬車にはだれものっていなかったのかな
両親とか兄弟とか
あれではだれ一人助かるまい
おいでになるそうそうたいへんでしたことドクトル
今夜はごゆっくりおやすみなさいませ
あれではだれ一人助かるまい…

ピタン
ピタン
ピクッ!
ピタン
ピタン
ピタン
ピタン
ピタン
ガタガタガタ
ガタガタ…
ピタン
ピタン
ピタン

ガタガタ
ゴトガタ
コトン
ガタバタン
ガタガタガタガタ
コトン
ドクトルーっ
青い目…
青い目…
血…
ヴィオリータ…
だれか……

おそらく頭をうって仮死状態になっていたのが
いかなる奇跡か目をさましたのですな
不思議なもんだまだ生きている
助かるかね…
……?
わたしの館から…もう死人は出したくない
呼吸数も脈も重病人なみに半分以下だ体温もずっと低い
ずっと眠りっぱなしで目をさまさないんだ
なにも食べず水も飲まずですわドクトル
もう十日以上も
まるで冬眠状態だね
伯爵さまもやっかいものをしょいこんだこと
まあケガ人がどこのご子息か知れないのにそんなことを

あのまま
ずっと
目をさまさ
なかったら
……？
やがては
死ぬだろうね
青い目
だった
やまいで
まっかな
血をはいて
わたしを
残して
いってしまった
ヴィオリータ
……妻に似た
青い
青い目
だった
ああ
目ざめては
くれまいか
早く――

やあ
兄さん…!!
ロジャー
初椿の
咲くころなので
またきたよ!
わたしの
弟だ
こちらは
ドクトル・
ドド
ハロウ
よろしく
ロジャー・
エヴァンズ
もうそろそろ
こおった池に
つられて
スケート客が
この館に
やってくる
時期だ
きみは
わたしの
館は
初めて
だったね
スケートは
できるかい
おお
わたしは
フランスで
毎冬
すべってたよ
初椿が
咲きましたわ
伯爵さま
おお
美しい
初椿は
眠り姫の部屋に
香りが目ざめを
誘うかも知れん
眠り姫?

キャ—アアアアア
だれの悲鳴だ?
…子ども…!
どこから—
…椿の香りが目ざめを誘ったか
心配はいらない
心配はいらないのだよ
……よかった!

名は？
名はなんというね？名は？あん？
名は？
名は？
名は？
…エドガー
エドガー……
…あの子
…どこ…？
あの子とは？
ここはわたしの館だわたしはヘンリー・エヴァンズ伯爵
ヘンリー
きみの馬車は川におちてきみだけが
ヘンリー！

とんだ
お荷物を
しょいこんだ
もんだな
え
兄さん……!
赤ンボ
みたいに
なっちまった
ガキとはね!
赤ンボ
では
ない
ゆっくり
養生すれば
少しずつでも
思い出して
もとに
もどるかも
しれん
…
そうだろ
ドクトル
——
わからん
エドガーだけじゃ
話にならんよ
エドガーと
いう名が
おもしろい
?
なんだね
そりゃ
ぎょうぎょう
しく…
カタン
オズワルド・オー・エヴァンズの
遺書だよ
…われわれの
祖父にあたる
人だ

こののちの世代に
エドガーおよびメリーベルと名のるものがエヴァンズ家の子孫のまえに現れた場合は

は？
彼らの身分・国籍・年齢いっさいにかかわらずエヴァンズ家の資産すべてを付与すべし
エヴァンズ家のものどもは末代にいたるまでその名のものどもにとりかえせぬほどの大いなる負債をおっているものである

冗談じゃない オズワルドじいさんは気がくるってたんだ!
ロジャー!
ガタ!
かせ! 大事にとってるあんたもあんただ やぶいてすてててやる
ロジャーきみおちつけ!
効力はないのだよ
一七八〇年 オズワルド・オー・エヴァンズ
ドサー!
……あたりまえだ!

バカバカしい！エドガーにメリーベルが現れたときへっ！
一七八〇年⁉…四十年も昔の遺書じゃないか！

おもしろい遺書とおもしろい偶然の一致だな
なにが！エドガーなどという名はざらにある！

ではあとメリーベルが現れればよい

たぶん…祖父はこの名の二人の者にカネではかえられぬほどの恩をうけたのだろう

それできみは遺書のとおり資産いっさいをゆずるかね？うえの部屋で眠ってるエドガーに
アカの他人にゆずる資産があればこっちがもらいたいね！

きみはカネに窮しておるのかねロジャーくん

資産いっさいとまではいかなくても…

祖父の心にそい少しの誠意なり見せてもよいだろう
記憶がもどるまででもあるいはずっと…
わたしには息子もいないから
一人ぐらいいてもいいだろう
青い青い目
わたしの妻は
身ごもって…臥した
生まれてれば子どもはやはり
青い目だったことだろう…
伯爵さま…
へん…ごりっぱな道楽だ！
きみはロンドンに住んでるのかねロジャー
パリへも行ったことはありますよ！
なかなかはなやかな都だわたし好みで
ロンドンは陰気だがそれでもはでに遊べるとこもある

はで好みの
きみの弟は
なぜこんな
いなかに
くるのだね
ああ　彼は
事業に投資して
いてね

毎年この
時期になると
資金がたりなく
なるらしい
ほう！
なんの
事業かね

さあね
それが
口実でも
あいにきて
くれるのは
うれしい
そら！
枝をおっては
いけないよ
指にキズがつく
エドガー

まあ
ほんとの
親子
みたいに
むつま
じいこと
伯爵さまは
あの子に
夢中だよ
毎日
いろんな
ものを
見せては
思い出さ
せようと
なさって
ますわ

われわれは
おいてけ
ぼりだな
エレン

白い椿
赤い椿
木ぎ
梢
小鳥

雪

たづなをひいて!
ひいて!
ひいてっ!
ようし
すじがいい
こういったからだで覚えてることはすぐ思い出す
エドガー!
つまりね
なぜだかこの子は脈が一分間に四十五ほどしかないんだ
それではげしい運動をさせればどうなるか……
わかったわかった
へん…やっかいな子だ!
ロジャーさまお手紙ですわ
やれやれこんないなかまで借金が追ってくる!

おじさーん
キャーおじさまーっ

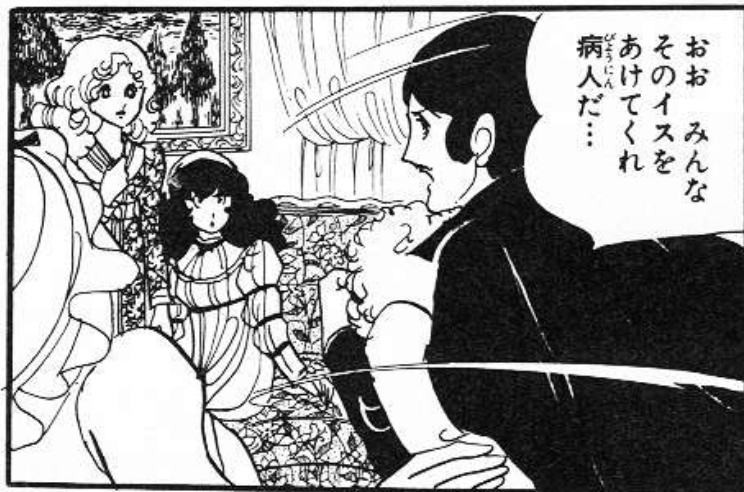
ロジャーさま！グリーナウェイのリンダさまやアーネストさまがお見えになりましたわ
ほ！
兄さんの妻のほうの親族だ
おいっ子めいっ子
ほほう

まーっロジャーおじさま！1年ぶりね
ははようこそレディージェントルマン
まだ結婚はなさらないの？ハンサムさん！

あら待って！今回はお友だちもいっしょなの
メリーベル！

メリーベル!?
ほー
メリーベル・ポーツネル男爵令嬢
ロンドンのわたしたちの家のとなりについ一か月ほどまえ越して見えたのよ
わたしたちとてもなかよしなの!ねえメリーベルねえアーネスト!

メリーベルのお父さまとお母さまはご旅行中なんですって
だからスケートにお誘いしたの
ねえもう池は氷がはった？
離宮までびっしりと
あらヘンリーおじさまは？
ヘンリーおじさんは…そらエレンが見つけてきた
！
ドクトル・ドド！
エドガーがまたたおれた手あてを…
あのバカが…！！
んま？
エドガー？
あれ男の子をつれてるよ……あれはだれ？

〈P・S〉
読者からの手紙に、バンパネラのエドガーに脈があったのは、なんででしょうというのがあった。
バンパネラには、元来、脈がない。並みの体温もないはずだし、息をすうことも必要ないわけだ。汗がでることも、トイレにいくことも、肉やパンを食う必要もない。…ということになっている。影も本来ないはずだが、それじゃすぐ、ア、人間じゃないってことがバレてしまう。ポーツネル男爵が、ふだんエドガーに、人間らしくしろといっていたことが、功をなしたのかもしれないし、エドガーは記憶を失って、精神年齢がおおはばに逆行してしまっていたので、自分は人間だと思ってたのかもしれない。また、事故のショックで、人間にもどりたいと思っていた意識のほうに逆に支配され、バンパネラとしての記憶のほうを失ってしまったせいかもしれない。

まあほんと！
そんなわけが
あったの？
この子は
ほんとに
なーんにも
覚えて
いないの？
なんて
ロマンチック
なんでしょう！

わたしの
息子だと思って
あまり
ムリをさせず
仲間にいれて
やってくれ
うん
いいよ

仲よく
なれるよ
ヘンリー
おじさん
同じ年ごろ
だしね

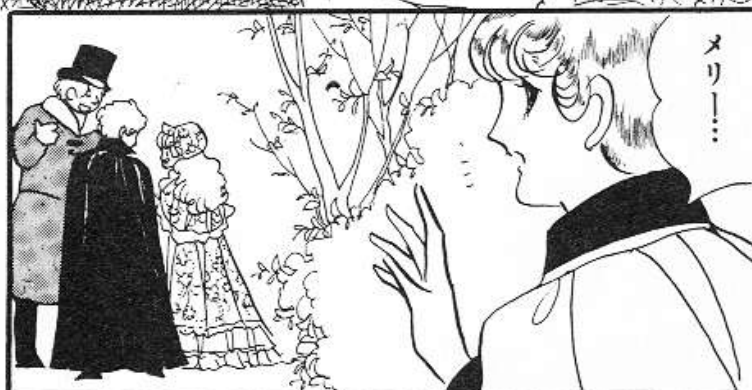
よろしく
エドガー
ぼくは
アーネスト
わたし
リンダよ
うふん
青い目さん

メリーベルに
エドガーか！
役者が
そろったぞ
どうするね
バカな
…ただの
偶然さ

あんなきれいな子がこんないなかにいるとは思わなかったわフフまよってしまう
メリーベル
どうしたのおうちが恋しいの?
まあわけを話してよさっきもあなた泣きだして…
あの男の子のせい?まあ…!
かわいそう!そんなに好きなの?きっとひと目ぼれねそして初恋ね泣かないでよ
じゃわたしアーネストかロジャーおじさんでがまんするわあなたの恋には協力をおしまなくてよメリーベル

ようこそ
ボーツネル男爵さま…!
いえ ご子息はお見えになりませんでした とうとう
へえ 一か月ほどまえですかね 馬車ががけからおちて…
エヴァンズ伯爵が助けてずっとめんどうをみておられるとかで
エヴァンズ? エドガーの もともとの家系ではないか
やつめ なつかしがって いっついてるん だろう
ケガをしてるのかもしれないわ 心配だわ…
かまってられん われわれは先をいそいでるのに
わたし そばにいるわ いいでしょ 次に お父さまたちが ここをとおるまで
どうやって近づく?
話では ロンドンに住んでる親族が毎冬スケートにくるとか
そちらから近づいて スケートの招待をうければよいわ
せっかくきたのに
なにもかも忘れてしまってるなんて
わたしのことも? エドガー
みんな? …エドガー

まだ氷はうすいのねおじさま
もう一週間もすれば中央まではるよ
そうしたら中島にある離宮まで歩いてわたれるようになる
スケートをやったことある? メリーベル
いいえ初めて
おしえてあげるよすぐ覚えるよ
まるで幸福なご一家の絵ね
あれで伯爵夫人が生きていらしたらねえ
エドガー!

花の枝をおってはだめよまだこのくせがぬけないのね
よく知ってるね彼のくせを
え？あ…！
メリー…
あーららアーネスト人の恋路をじゃましちゃだーめよ
リンダ
へーっメリーベル嬢がエドガーに？
きゃっロジャーおじさまハンサムさんうふん
バカいえよ
まーわかんない人ねメリーベルをごらんなさいな
エドガーばかり見つめてるじゃない
…メリーベル…

いつも白い椿だけを切ってるのねエレン
ええ伯爵さまがお好きだから
エレン…ヘンリーさまが好き？
まあ…もったいないわたしはただの…ただの
それに…わたしは青い目じゃありませんもの
伯爵夫人はそれはきれいな青い目をしてらしたかただとか
ご病気でもうおなくなりになったのですが伯爵さまはまだずっと愛していらして
エドガーのような？
ええそれはきれいな
だからわたしにできることといったら
こうして花をつむことだけ

ねえ いいものをあげましょう エレン
まあ なんでしょう メリーベルさま
これはね ただのバラの香料よ
お茶にいれて飲むと それはよい香りがするの
バラ?
でもね もう一つ秘密のききめがあるのよ それは—恋のめばえるクスリ!
それはただのおとぎ話でしょう
おとぎ話でもいいわ わたしエドガーが…お願いよ
昔からバラは愛の花だというわ きっと思いはつうじてよ
かわった香りだ どこのブランデーだ
バラの香料をいれましたの
パリの王室ではこのようにしてお茶を飲むとか
そんな話があったかね

まいい香りだ…!

早く健康になってそうすればきっと気持ちもはっきりとしてくるわ

わたしのことも思い出すわ

早く早く…エドガー

なんて目でエドガーを見るんだメリーベル

いやねアーネストあなたシットにくるったこわい目してるわよ

あなたにはわたしがいるじゃないうふん

──メリーベル
くずれた へいのあいだから 白いマリを 追いかけて 現れた 少女
それが ぼくらの 出あいだった ことを
忘れては いないだろう?
すぐリンダが きみと おしゃべりを 始めた けど
あの日からずっと ぼくの目にはきみだけ
なのに いまさら
あんな ウマの骨に きみを とられて たまるか

やあエドガー いいことを 教えてあげるよ
似てる?
まさか!
メリーベルは きみを 好きなんだってさ!
半病人で 記憶のない きみの
青い目に いかれたんだってさ… おい わかるのかい?
…おい
……
…ふん! ほんとうのバカじゃないか
しゃべれも しないし
こちらが なにを 言ってるかも わからないんだ!

子どもたちは仲よくやってるかね？
ええ伯爵さま
よいねえエドガーもずっと顔色がよくなった
…メリーベル・ポーツネル嬢がエドガーに恋してるとおしゃべりリンダが言ってたが
…ま伯爵さま…さあ？
メリーベルとエドガーが
なあエレン…
わたしがエドガーを正式に養子にして…
メリーベル嬢が花嫁としてエヴァンズ家にさんじるという図は
夢のまた夢だろうかね
まあ伯爵さま

わたしは
反対だね！
あまいよ
兄さんは!!
ロジャー!!
……
ただ……
いやいや！
夢ではおわらんかも
しれん
オズワルド・
エヴァンズは
予知夢を
見たんだ!!
それできっと
あんな遺書を
残したの
だよ！
バカバカ
しい！
予知夢だと？
予言だと？
あんな
小僧一人
現れた
ために！
たかだか
あんな小僧
一人

アーネスト！
アーネスト！
とまらないわ
ぶつかる
ぶつか…
キャーッ
そら
もう
覚えたじゃないか
かんたんだろ？
ハア
ハァハア
ああ
ひどいわ
氷って
つるつるで
メリーベル
好きだよ…

きらいじゃ
ないわ

きらいじゃ
あ…でも

でも

メリー
ベル!!

メリーベル
愛してるんだ!
だめなの!
だめなの!
だってわたしは
わたしはどこまでいってもたった十三歳の少女でしかないの
それ以上は大きくなれないの
あなたがいくらわたしを好きでも愛せない
ごめんなさい
ごめんなさい
だからエドガーだけなの
わたしはいつまでもエドガーの妹でしかないの
エドガーだけしかわたしの世界にいないのよ
恋なんてできない

エドガー!!
ズザー!
あ……っ!
ドサッ
エドガー

エドガー…
エドガー……!
エドガー
……
わたしよ
…!
…わたし
よ……
……
!?

エドガー
エドガー
わたし
よ
エドガー
わたしよ
エドガー
さま?
おやすみまえに
顔と手を
おふきしますわ
どうぞ
今日は
どちらまで
お歩きに
なられました?
ずいぶん
丈夫に
なられて
伯爵さまも
およろこびですわ

!?
どうなさいまして？
どう…
…お祈りなさいませ 苦しいことがおありなら
心の中でいうだけでもよいのですよ
あなたの病気がはやくなおるように
これを……
神さまが見ててくださいますよいつも
さあ おやすみなさいませ 聖書を読んでさしあげましょう

エレンはよい娘だよ…ほんとにあれにはは感謝している
ああ美人だし
エドガーがどこのだれなのか
まったくわからない
彼も……ものこそ言わないが思い出せないジレンマに
悩んでるのではないかねかわいそうに
……なにか？ドクトル・ドド
いや
…！ヘンリーはあの子に夢中だ客観的に判断できまい
わたしならできるよなんだね
それじゃあ言うが……わたしはひょっとしてあの二人は知りあいじゃないかと思うんだよ…ロジャー
どの
エドガーとメリーベル嬢
あんたもエヴァンズの遺書に毒されたくちか！

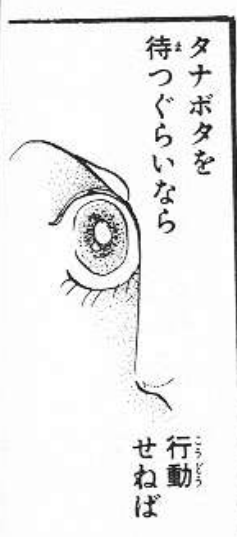
つまり……考えてみれば……
考えてみれば？

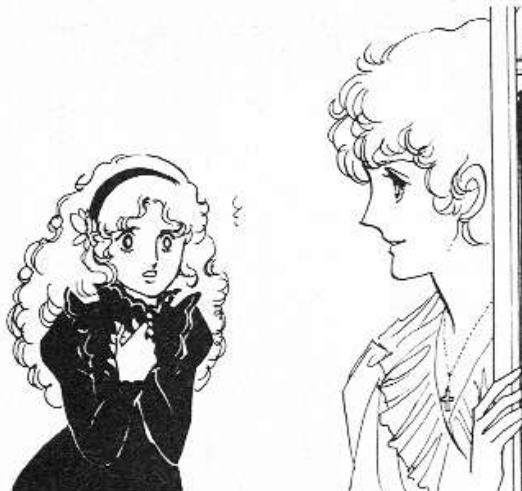
エドガーもメリーベル嬢もわれわれにとっては新参者だ
まったくの

わかってることは一つだよあの死にぞこないのガキは
エヴァンズ家の財産をねらってるんだ
あの二人が知りあいならどうしてメリーベルはそう言わないんだ

!?
ロジャーいちじるしく主観がはいってるな
はやいとこくたばれいっそぶち殺して

まったくぶち殺したい！
やつ一人のおかげで計画がめちゃくちゃだ
いつもならヘンリー兄さんは事業はどうだとかカネは足りてるかとか聞くころなのに
話すことときたらエドガー エドガー エドガー

やれ死んだ
妻に目の色が
似てるだの
ふびんだの
かわゆいの
まったく
くそおもしろくない
毎年なんで
オレだけがこんな
苦労をする
次男で財産と
爵位が継げなかった
からだ
…兄貴がいなけりゃ
みんなオレの
ものだったのだ
そうだ
がけからでも
落ちてエドガーといっしょに
死んでくれんかな
ぐあいよく……！
……
タナボタを
待つぐらいなら
行動
せねば
オレにだって
人殺しぐらい
ちょろく
できるぞ
そうだとも
ああ！
ヘンリー・エヴァンズは
すこしばかり運が
悪かったんだ
アーメン
借金からは
おさらばだ！

ザザッ
ひどいわ
やったわね
待ちなさい
アーネスト
キャアー
おはようございます
エドガーさま
おや
きれいな
十字架ですこと
キャ キャー
きゃあっ
……十字架……！

ああら 青い目さん おはようっ
まあ貧相な 十字架つけて きれいよ 銀ね 似あってよ
きゃあ お茶を ちょうだい のどが かわいたわあ
………
あら どうしたの ロジャー おじさま まっかな おめめ
あ ゴホン 昨晩 考えごとしてて 眠れなくてね
まーっ インテリジェンス! どんな?
さ…… え……
殺人計画だなんて いえるか
ああ どう しよう
銀の 十字架だ なんて

ああ…だめ！
…銀……
わたしたちのからだが
同化しきれないもの
十字架
あれに含まれている
信仰が怖いの
わたし、
父さまや
エドガーのように、
平気でそれに
ふれられるほど
強くはないわ
ああ
どうしたら――

エドガーの
銀の十字架よ
そうよ
ほしいのよ
わたしの
たのみよ
だめ？
……わたしを
愛してるって
言ったのはうそ？
メリーベル
メリーベル
きみの
ためなら
きみがそれを
ほしいと
言うのなら
ぼくは
気がくるったって
女王陛下の
髪飾りだって
エデンの
リンゴだって！
わたしは
反対だね！
身もとが
はっきりせん！
反対!?きみの
意見をきいてや
しない！
わたしが
そうしたいと
言ってるんだ
ヘンリー しかし
正式に養子に
することも
ないだろう！
万が——

なんだよ！ちょっと見せてくれって言ってるだけじゃないか
ア……ア！
アーネスト！
すぐかえすよ
ヘンリーおじさん……！
彼と仲よくなれると言ったのはきみではなかったかね？
ぼくはただ……
彼は病人なんだ 五つ 六つの小さな子どもとかわりはないんだ！
弱い者いじめは感心せんねおいでエドガー
ヘンリーおじさん……
バタン！

——あーあんなに
おこらなくたって
まえにしかられたことは
一度もなかったのに
気にすんな アーネスト
ヘンリーは ちと
きげんがわるいんだよ
そうそう
それとね
きみはもう
あの
青い目の子ほど
おじさんの
お気にいりじゃ
ないってこと
ロジャー
エドガーと
メリーベルを
結婚させようなどと
たわごとをぬかすよ
よっく!
結婚……!
ロジャー
くちをつぐめよ
なんでさ
そのことで
あんたは
相談うけて
たんだろ?
まったく
あの子が
なんだって
いうんだい
ただの
死にぞこない
じゃないか!
ヘンリーを
たぶらかして!
ぶち殺したいね!

毎度のことながらよい香りだね この香料は！
ふん香料か
そうだ毒をつかうって手もあるぞエドガーとヘンリーの皿に
うっかりオレが飲んだりして！
エドガーとメリーベルを結婚……
ヘンリーおじさんがその気だなんて
アーネスト
エドガーの十字架をとってくれないかしら
さあ午後はスケートに行きましょうよ！
春みたいにいいお天気よ！外に出なきゃ！

Oh! apple pie!
ちょいと話があるんだがねヘンリー
話?
アーネスト!エドガーといっしょに行ってくれんかね?
ぼくは一人で……
かるく池を一週でいいんだ
むしゃくしゃするからつっ走ろうと思ってたのに死にぞこない……
!
……そうだった十字架……
なんと絶好の機会!

なんだね
話とは
せんだっての
一件さ

そりゃいいよ
きみがエドガーを
ひきとるのは
きみの問題さ…でもね
一友人として一言…
彼の身元が
わかってからにしろ
っていってるのさ

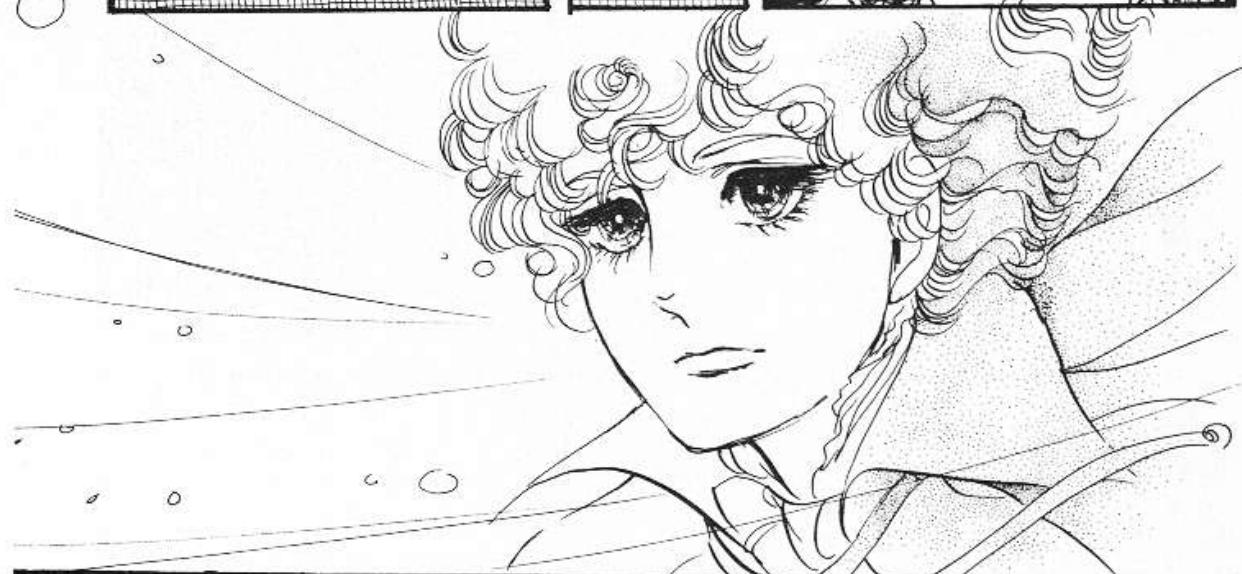
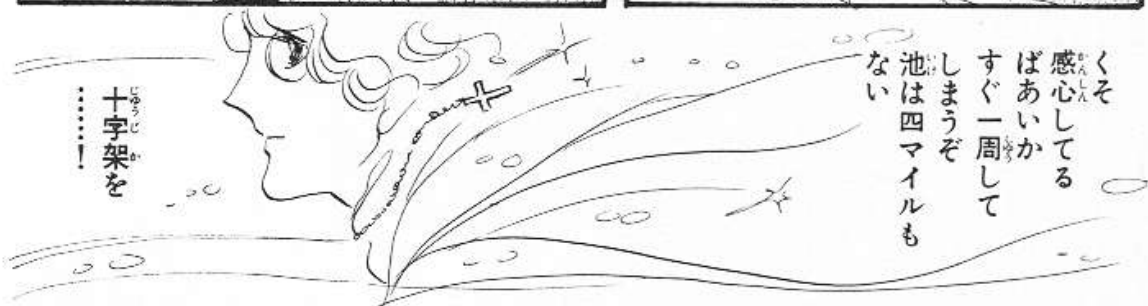
身元?
彼が記憶を
なくしてるのは
きみも
知ってるじゃ
ないか!
ヘンリー

わたしは
うらない師でも
予言者でもない
ドクトルだが
伝説や
悪魔や
神の存在に
ついては
信じてる
ものだよ
わたしは

オズワルド・
オー・
エヴァンズの
遺書が
気になって
しようが
ないんだ…!

よいかね
メリーベル嬢は
なぜか会いしなから
彼が小枝を
おりながら
歩くくせを
知ってたよ
その時は
気にも
とめなかったが
エドガーに
わたしよ と…

エドガー わたしよ と
くりかえしていたよ
だれも見てないとこで

わたしのカンじゃ
あの二人は
知りあいだ
…よいカンだね
ドクトル
だが
知りあいなら
メリーベル嬢はなぜ
そう言わないんだ?
ようすを
見とるのかも
しれんよ
エドガーの
記憶がもどるのを
待ってるのかもな
われわれは
連中の過去を
いっさい
知らんのだよ
彼らは
きみょうな客人だ
少なくとも
メリーベルは
計画的に
ここにやって
きたんだ!

病人にしちゃなんと軽く手なれた乗馬だ
くそ
感心してるばあいか
すぐ一周してしまうぞ
池は四マイルもない
十字架を……！
おーい
くもってきた！
そろそろ帰ろうぜ！
お嬢さんがた！
リンダ！
リンダ！
帰るよ！

離宮をまわってすぐくるわ!さきに行っっててぇ!
む!まったくおてんばなお嬢さんだふ!
こりゃひとあれきそうだぞ
寒くないかね
いいえ
アラ!
…からみつくよ
からみつくよ愛してる
金色ににおうよ金色に
ジンチョウゲジンチョウゲ金色ににおう
からみつくよからみつく愛してる
なつかしい古い歌だ!自分で覚えてるとは思わなかったよ死んだおやじがよく歌ってた
オズワルドが?
オズワルド?おやじはクリフォードってんだよ
オズワルドは祖父の名さ会ったこともない
あ!ああ…

ああそうね いま一八二〇年… 何十年も たってるのよね 歌って遊んだ時 から
ロジャー あなたは少し オズワルドに 似てるわ 声も！
…とても やさし かったの
？
？
？
？
ズザザーッ
ザザッ！
あ……ッ
ヒヒヒーッ
今だ！ チャンス！

死にぞこないめ！
さあよこせ！
ア……ッ

プチッ

そら
手に入れたぞ
ざまあみろ！
なんだてめえは
ぶざまにも
ねっころがっ……

ギクッ！

…あ…！
エドガー……
死んで…？
死んでしまった…!?

見てる
水魔
生きてるのか？
水の中で？
水の…！

あ!?
あ!?
キャー

ア…ア
きゃあっ!
リンダ!
アーネスト
ああ…
あれは
あれは
アーネスト!
首から
血が!

おじさん!!

エドガー
わたしよ
わたしよ

これは
なんだ!
たいした
作法だ!
ああ
おじさま
あああ
アーネスト?
ずぶぬれに
なって!
ぼくより
リンダを!

リンダ?
アーネスト?

メリーベル!
あなたの
恋するエドガーは
人間じゃないわよ!
こわかったわ!
ああ
こわかったわ!
首に…首に!

首だと?
どうした?
か…かみついて
きたんですよ
彼が
十字架を
はずした
とたんに
またケンカを
したのか?
あれは
怪物よ!
目が光ってた
ほんとうよ!
なんとかして!
首に
かみついてきた
──?
メリーベル!?
では記憶が…
もどったんだわ
もう
待つこともないわ
わたし
つれていけるわ!

メリーベル！どこへ！
もどった？つれていく……？
メリーベル！

これはなんのしばいだ？エドガーはどこだ!?
彼は人間じゃないよ！

……ではメリーベルも…

ドクトル！

――昔から首にくらいつくのはバンパネラだとそうばがきまっとるもし……
気がくるっているのはきみだ！バラでも散らしたか!?エドガーが

残念だよ！椿の木ばかりでだがもしバラがあったら……
…バラの香料をいつから使い出した？

あれはメリーベルさまが………

エドガーは
どこだ
エドガーを
見つけ出して
そうすれば
すぐわかる
ヘンリー！
ヘンリー
兄さん
わたしも行く！
こいつはいい
オレは悪魔など
信じないが
伝説に乗じて
エドガーを
追い出すのも
手だぞ！
追っかけるよ
…不安だ！
戸をしめて
おけ！
ドクトル！
アーネストさま
着がえを
ヘンリー
おじさん!?
ロジャー
おじさま!?
伯爵さま？

……
入れないでエレン！
メリーベルさまは　おりません
…あの子どこ…？
外ですわエドガーさま外ですわ

エドガー！
エドガー！
あの子はからだが弱いのに！
こう広くちゃむりだ兄さん
エドガー！
今だ！どさくさにまぎれて一発
過失とでもなんとでも
今！い……アーメン

ザラザラ
兄さ……
エドガー！
エドガー！わたしだ！
なにをするロジャー
あんた…あんた…兄さんありゃありゃ
エドガーじゃないそれだけは保証するとんでもないものを川からひろったな
ありゃ悪魔……
やめろロジャー
ぶち殺さんとこっちが殺される離せ兄さん
エドガーだ！

にいさん

ギク！
…グルめ グルめ
最初からグルだったんだな
メリーベルとエドガー
くそ！
賛美歌一つ出てこん
けちな大望を持ったオレの一生もここまでか！
アーメン
あの子…？
どこ？
エドガー！

…メリーベル？
そうよ！
メリーベル！
そうよ！

わたしの
エドガーは
どこへ行って
しまった
あの青い目は
どこへ行って
しまった
——ヴィオリータ?
…?
だれかが
わたしを
見つめている
ずっと見つめ
続けている
エレン?
…雷に
うたれたんですわ
伯爵さま

すぐに
お元気に
なられましてよ
……

なんという
よい娘だ
なんと
あたたかな色の
目だ
口がきける
ようになったら
だれが
なんと言おうと
結婚を
もうしこむのだ
あなた
メリーベルが
好きだったんでしょ
アーネスト
うふん
でも
うすやみや
月光に
恋しても
なにも
できないから
リンダ

まったくドジな男
ロジャー・エヴァンズ
兄貴を
殺すかわりに
助けよう
として
落雷このざま
ああ

ジンチョウゲ
ジンチョウゲ
金色に
におう
まといつくよ
まといつくよ
愛してる

――ロンドン
はい　たしかに　オズワルド・オー・エヴァンズ伯が　以前のこの家の　持ち主でした
まあ　わたしも　そのかたのことは　よくぞんじませんが　たいそうな美男子で　愛妻家で　道楽者だったとか
その階段の　おどり場にそって　肖像がかかって　おりまするよ　ずっと　ご先祖の
おきれいな　かたでしょう
なにを　おのぞみで？
エドガーと　メリーベルに　ついてだがね
………　メリーベル……　養女としてまいった　アート男爵令嬢が　メリーベルと　いう名ですな　……十三歳
ほ　まあ　養女とはいえ　昔の　ことですから
第二夫人　第三夫人として　恋人がわりにでも　引きとられたのでは　ないですかな
もっとも　この令嬢　すぐ　なくなって　ますが

「エヴァンズの遺書」1974年11月